

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791400068		
法人名	特定非営利活動法人あそびりクラブ		
事業所名	あそびりクラブ 西小路の家		
所在地	大阪府箕面市西小路3-11-6		
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果市町村受理日	令和3年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い介護がしたいという思いのボランティア活動から発展したNPO法人が運営しているグループホーム。職員全員が、この精神を忘れずに日々の介護に生かしている。1人ひとりのできる力を生かし、家事や外出の機会を提供して日中の活動を活発なものにしている。コロナの影響もあり出かけることは少なくなっているが室内で楽しめることを全員で考え取り組んでいる。計画通りのプログラムではなく、天気や体調に合わせ外出することで生活リハビリにつなげている。外部との交流が難しい中、ボランティアさんに協力してもらいZOOMを利用した音楽療法などで交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「遊びながら心も身体も頭もリハビリをする」のあそびりセッションの造語から、「あそびりクラブ」の名前の由来がある当事業所は、四季折々の行事・食事を漫喫しながら利用者自身の有する能力を最大限に活かし、生き生きと生活できる支援を目指し管理者・職員が一丸となり取り組んでいる。住み慣れた地域の中で洗濯物を干す・たたむ、食事作り・準備、掃除に関わり役割を担って、認知症の抑止と悪化の緩和に努め安心して生活できるホーム作りを追求し続けている。手作り感のあるレクリエーション(玉入れ・パズル・お手玉・的あてゲーム・オセロ・数字盤)や手作りおやつ(抹茶ゼリー・あんみつ・フルーツゼリー)焼肉パーティー、たこ焼を楽しんだり、季節の保存食(梅ジュース・らっきょう漬け)を皆で一緒に作ったりして、利用者が笑顔で楽しく暮らす支援を行っている。又研修や会議を積み重ね職員全体のレベルアップを図り、日々研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1、笑顔あふれる楽しい暮らし 2、ここちよい安心して暮らし 3、地域の中で自分らしい暮らしという理念で、毎月ミーティングでは、気づきや意見を出し合い理念に沿った支援を行えるよう取り組んでいる。	職員全体で創った「笑顔あふれる楽しい暮らし・ここちよい安心して暮らし・地域の中で自分らしい暮らし」の理念を毎月のスタッフ会議で意識の徹底と確認を行っている。事務所とリビングの目につく所や玄関入口に理念を掲げ、職員のケアの基本の振り返りを促すと共に、家族・第三者への周知を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な計画を練っているが、コロナ禍の為に自粛している。新聞を製作し、周囲に配っている。	散歩時の際に近隣の方と挨拶を交わし、顔馴染みの関係と地域の中の自然な生活が築かれている。話し相手や趣味活動・楽しみ事の手伝いに地域のボランティアの協力があるが、コロナ禍自粛の今はオンラインの音楽療法を取り入れて、童謡・唱歌を歌って楽しんでいる。事業所へ直接の訪問や電話で、介護や認知症の問い合わせがあり、その都度応えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策をしていただいたボランティアに来てもらい、作品の指導やゲームを一緒にしてもらい利用者との交流を図る機会を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議の資料を送っている。コロナ禍の為集まることが出来ない。	この一年間は運営推進会議の実質開催は難しく、文書で生活ぶり・行事・イベント報告を行い、会議構成メンバー(市職員・地域包括支援センター・民生委員・家族)へ議事録を送付している。実質開催が可能となったら参加メンバーからの情報収集と意見交換を活性化させたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議と3ヶ月に1回のグループホーム連絡会に市町村担当から情報を得てサービスの質の向上に役立っている。	市の高齢福祉課と密に連絡を取り合い、今は電話での対応が主となっているが、情報やアドバイスを得ている。社会福祉協議会からメダカを頂き、利用者と職員と一緒に大事に育て孵化をさせ、生き物の成長過程に触れている。グループホーム連絡会(3ヶ月に1度)で情報・意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を行い、身体拘束や行動制限を行わないよう、職員に周知徹底している。玄関は施錠なく開放している。	身体拘束についての研修や毎月の適正化委員会を通して弊害についての理解を深めている。スピーチロック等の不適切な場合は、管理者がその都度注意を促しケア向上に努めている。床マットセンサー使用の人(2名)には家族に説明して同意を得ている。日中は不穏行動が見られた時以外は出来るだけ玄関を開錠して、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が参加し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ研修の機会を設けている。心身が動きにくい方、拒否される方に実行しなくてはならない介護もあり、無理強いが虐待ではないか悩む。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ必要な方はいないが、必要があれば活用出来るように資料を揃えている。また、年一回、職員全員が参加し、成年後見制度についての研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を用いて管理者から契約の説明を行い、ご家族が納得して同意できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に日々の会話を通して利用者の声を聞いてもらっている。玄関に意見箱を設置している。また年2回の家族会とは別に、各家族と話し合い意見、要望を聞く機会を設けた。	日頃のケアで利用者意見に聞き、家族にはコロナ対策や時間制限を行っての訪問時に意見を傾聴している。春・秋の家族会で活発な意見交換を行っていたが、家族会自粛中で意見を聞く機会が少ない。重篤化した際の救急搬送についての相談について、医療に直結した時の救急搬送と安静にして状態を見極め対処する方法等の選択を、充分に行って欲しいとの意見があり全体で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員がNPO法人の会員となり議決権を持ち総会に参加している。収支の事や利用状況に対して周知し理解している。しかし、意見を聞いたり反映する機会は減っているように感じる。	管理者・職員のコミュニケーションは良好で、意見を出しやすい環境となっている。又毎月のスタッフ会議や意見コーナーにある記録簿に気づきや提案を記入している。利用者の睡眠不足や食欲不振の改善のためのエアマット使用の職員の提案に応え導入し、利用者の安眠と褥瘡予防へ繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個別に各職員に対し面接を行い意見を出さず場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を職員に提示し、事業所内外の研修に参加し、研修報告を職員間で共有する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、グループホーム連絡会を開催し、市内の事業所が集まり、テーマに基づく話し合いや情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、利用者本人と面接の機会を持っている。可能な場合は居室ホーム内を見ていただき、これまでの生活状況を把握した上で他の利用者とともに安心して過ごせる環境を提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族から聞き取りを行いパーソンドケア方式によるアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聞き、適切な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事の中で、やり方を教わったり、礼儀作法を学んだりしている。また、共に生活し支え合い、笑い声の多いホームとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況をお伝えし、相談しながら共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の了承のもと、食事介助など家族を含め、なじみの人と自由に関わっていただけるように支援している。なじみの場所に出かける。	かつての友人・知人や家族の訪問は現在は自粛中で、家族の訪問対応は事前予約制とし、10分間の時間制限とアクリル板を使用し、事務所の近くの別室で面会を実施している。馴染みの美容院・墓参り・外食等はコロナ沈静化に再現したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良いものになるように、自然のなかたちで職員が支援している。座席位置に配慮している。トラブルが生じそうな雰囲気の際には、さりげなく間に入り回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される利用者について、事業所で生活していた際の情報を詳しく提供した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者に対する気づきを出し合い、1人ひとりの思いや暮らしぶりをしっかり把握し、本人の希望や意向に沿った支援ができるように努めている。	1対1でリラックスできる入浴時や就寝前の落ち着いた時間帯に、打ち解けて話しが弾むときがある。何が楽しく、何がうれしく、何が嫌いか等を聞き、その人らしい生活の実現化や希望に合わせたレクリエーションの取り入れを検討し計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にできる限りの情報を聞き、本人の暮らし方を把握するよう努めている。その人の思いや生活してきたことを本人、家族と相談しながら把握できるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や身体状況の確認で体調の変化を注意深く観察して、日々の過ごし方を話し合い、支援に生かしている。訪問看護及び訪問診療により、より細かな体調の変化の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度、本人や家族の希望を反映させながら、各職員の意見を聞き介護計画の見直しを行い、作成している。状態変化があった場合には、随時家族や関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	毎月カンファレンスとモニタリングを行うと共に、本人・家族の要望を把握して、日々の状態を網羅したケース記録や主治医の往診記録・看護師の所見を参考に短期6ヶ月、長期1年の計画作成を行っている。身体状態変化時や要望に応じて随時見直して、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表やケース記録への記入で生活の中の情報や細かな変化を共有し、日々の実践や介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	視力障害を持つ利用者が落語会に参加する機会を設けたり一階に併設しているデイサービスの事業への参加を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報紙を参照し、参加可能な行事には、積極的に参加、週に2回整骨院の柔道整復師による訪問治療と訪問医療マッサージを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常時連絡が取れる体勢を築いている。月2回、利用者全員がかかりつけ医に訪問診療を受けている。3ヶ月に一回、訪問歯科検診を受け必要時には、随時訪問歯科治療を行っている。	利用者全員が協力医療機関の内科クリニックをかかりつけ医として月2回の訪問診療を受けている。当医師と24時間オンコール体制にある。他の専門科受診は家族の同行を基本としているが、同行困難な場合は職員が有料で受診支援を行っている。平日の夕方には併設のデイサービスの看護師が、そして火曜日には訪問看護師が体調管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護に毎週訪問してもらい、必要に応じて随時訪問支援をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、介護計画や日常ケアの実施状況をまとめて提出。病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と家族の面談を可能な限り促し早いうちから家族との協力体制について話し合い終末期・緊急時の家族の思いを受け止めている。可能な限り事業所で過ごせるように支援している。	入所契約時に重度化・終末期のケア対応指針で利用者家族の説明して同意書を交わしている。重度化の時点で再度確認のため、家族と医師、管理者、ケアマネの4者でケアの方針を話し、家族の合意を得て看取りの同意書を交わしている。職員にはミーティングを開き、管理者よりケア方針と手順を説明している。昨年度は1件の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	知識として初期対応の仕方からどこに連絡するかを資料にして、ミーティング時に確認する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、火災や地震また夜勤ひとりを想定した避難訓練を利用者と職員が共にやっている。近隣住民にも声をかけ、協力していただけるようお願いしている。非常食の備蓄。地域の避難場所、そのルート確認。スタッフ連絡網。	避難経路や手順を防災マニュアルに定め、毎月地震や火災を想定して避難訓練を行っている。春と秋の2回は消防署に届けをし、通報と避難の訓練を行っている。近隣にも声掛けをし、避難場所は所有者の承諾を得て建屋前のガレージとしている。消防署とは火災時の救出場所を確認している。災害備蓄品として水、缶詰、レトルト食品、即席ラーメンなどを1週間分を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳に配慮した言葉かけや対応を心がけている。記録や個人情報の取り扱いについても注意している。	新入職員に接遇研修を行い、職員に対して毎年の研修の中で「介護現場におけるプライバシー」として取り上げて研修を行っている。特に排泄介助時の声掛けについては注意を促して、利用者の人格と尊厳が守れるよう指導をしている。日頃、職員の言葉使いに問題があれば管理者はその都度、改めるように注意をしている。利用者に関する書類は鍵付き書庫に保管し、お便りなどの写真の肖像権については入所時に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、表情や行動も注意深く読み取り、丁寧に説明し、話し合い、ゆっくりと関わりあうよう努め自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムに配慮し、食事や入浴、昼寝など、本人のペースを大切にしている。共同生活の中でも本人の希望に沿った、その人らしい暮らしができるよう支援するように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族とともに季節にあった服装、清潔、おしゃれを支援している。美容については、ご家族と共に美容院へ行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、片付けはほとんど毎回利用者ができるように支援している。職員と共に食事をし、お誕生会や行事には好みの料理を提供し、楽しみの場となるようにしている。菜園での収穫物も取り入れている。	調理専門の職員が、食材を購入して、利用者の目の前で食事を作っている。利用者の数名の方が下準備を手伝ったり後片付けを手伝っている。お誕生日会や行事食では焼き肉やたこ焼きなど希望の料理を作っている。また、週に1～2回のおやつ作りや梅ジュース作り、らっきょ漬けを利用者と一緒に作ったりして充実した食生活を送れるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門職員が作りたての食事を提供している。各利用者の健康状態や体重の変化、嚥下状態に配慮して、それぞれに合わせた量や形態にしている。水分摂取量を介護日誌に記録し、特に気を付ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、食事室横の洗面台にて必要な場合には歯ブラシや入れ歯ブラシ、歯間ブラシを用いて援助を行っている。否定があっても、声かけや担当者を代えるなどして努力して介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めトイレで気持ちよく排泄できるよう援助している。状況に応じて、布パンツやパットなどきめ細かく変更対応している。	利用者の大半は昼間時、布パンツとパットを使用し、オムツの方も数名いる。排泄記録で排泄パターンを確認して声掛けをしてトイレ誘導をしている。夜間時はオムツとポータブルトイレの利用者が半分近くいて、2時間毎に排泄確認を行っている。これまでにオムツから布パンツ使用に改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ毎日ヨーグルト、オリゴ糖を食べるなど、便秘を防止するよう配慮している。献立作り、調理方法、残量チェック、食べ具合の観察などきめ細かく行っている。散歩、体操なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、昼過ぎから夕食前に入浴を実施し、本人の希望に沿えるよう支援している。最低週3回は入浴できるようにしている。ゆず湯など取り入れて季節感を楽しんでもらっている。	入浴は二日に1回、車いす使用の重度の利用者は週2回とし午後から一人介助を基本としている。重度の方でも二人介助で湯船の中に浸かれるように支援をしている。暑い時期はシャワー浴と足浴で済ます利用者もいる。季節湯のしょうぶ湯、ゆず湯、時にはバラの花びらを入れて入浴を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間に安眠できるように支援している。室内の温度調整に注意するなど、安眠への配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し職員全員で確認している。変更時には申し送り表やミーティングなどで確認合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力を生かして、掃除、食事の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、洗濯物たたみなどの家事、花の世話など利用者がされている。毎日の買い物や散歩、作品の制作や歌、体操、おやつ作りなど支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人の多い場所には出かけられないが、周辺の散歩や屋上へ上がっている。またグループホーム所有の車でのドライブも行っている。	コロナ下で外食や遠出の外出が出来ない状況であるが、感染対策をして少人数で事業所の車を使ってお花見やバラ園や紅葉を見にドライブに連れて行ったり、近くの公園に散歩に行ったり、屋上に上がって日光浴を兼ねてゲームをしたりするなど工夫をして外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日の買い物に、品選び、支払なども行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や展示物を飾り、季節に合わせて過ごしやすい空間になるように工夫している。トイレを認識しやすいようにマークを表示している。	元産科医院の鉄筋コンクリート造りの建物の2階部分の玄関から内部を和風造りに改装し落ち着いた空間を醸し出している。リビングは採光が良く明るく、真ん中に大きな食卓テーブルがあり、壁面や天井から利用者手作りのカラフルなフクロウの紙細工を飾り、大きな手作りカレンダーも貼っている。リビング横には対面式のキッチンがあり、昼食のカレーの良しにおいが漂って来ている。	共用空間内のソファやベンチの上などに無造作に物が置かれ、雑然とした印象を受ける。地震や火災時等の避難路確保や利用者・職員の安全面においても常に整理整頓を心掛けることを望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどでの思い思いに自由に過ごせる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、使い慣れた家具を置き、居心地の良い雰囲気を作りだせるよう工夫している。	居室は各部屋8畳ぐらいの広さがあってゆったりとしている。洗面所、押し入れ、ベッドは備え付けてある。利用者は、馴染みの整理ダンスや椅子などを持ち込み、思い出の家族との写真や置物を飾って居心地よく工夫をしている。入り口には表札を掲げて自室をわかりやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやポータブルトイレの設置など、安全を考えて工夫している。床は、バリアフリーになっている。グループホームは、二階にあるが、エレベーターも備えている。各居室に表札を設置している。		